独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

対象：特別支援学級の担任

※最新版は、
https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。

特別支援教育リーフ Vol.14

キャリア・パスポートの作成と活用

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所

キャリア・パスポートを活用して一人一人の子供の「自分らしい生き方」を目指そう

キャリア・パスポートは、障害の有無にかかわらず、子供が自分の学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりすることを通して、「これまでの自分の成長や変容」「今の願いや思い」と「将来」とをつないでいくことをねらいとした教材です。頑張ったこと、できるようになったこと、楽しかったこと、自分の長所、将来の夢や希望等を一つのポートフォリオとして記録し、毎年蓄積することで、将来に向かって主体的に考える力の育成が期待できます。また、キャリア・パスポートを障害のある子供が有効に活用するためには、一人一人の実態に応じて、指導・支援を工夫することが必要です。

◆日々の成長や変容を記録・蓄積するキャリア・パスポートは、一人一人の子供が「役割を果たしながら自分らしい生き方」を実現する上で重要な役割を担います。

◆キャリア・パスポートを作成・活用する際には、他の教育活動と同じように、一人一人の子供の実態に合わせた指導・支援を心がけましょう。

有効に活用できていますか？「キャリア・パスポート」

令和２年度から、すべての小・中・高等学校及び特別支援学校でキャリア・パスポートが導入されています。しかし、特別支援学級や特別支援学校では、「障害のある子供が作成するためにどのような指導・支援をすれば良いのかわからない」「教育的効果を実感しにくい」等の理由により、活用できていない学校も多いのではないでしょうか。キャリア・パスポートは、キャリア教育において重要な役割を担います。ここでは、キャリア・パスポートの役割と期待される効果、その理由を紹介します。

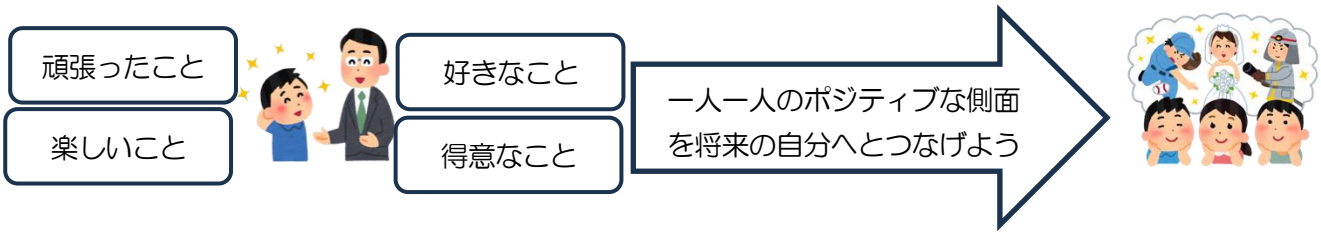
キャリア・パスポートが果たす役割

文部科学省は、キャリア・パスポートの例示資料において「子供ができるようになったこと、得意なことや自分自身の良いところ」を記入する欄を示しています。こうした内容を毎年記録・蓄積していくことは、一人一人の子供の「自分らしい生き方」の実現を支える上でとても大切です。

子供は毎日学習を積み重ねることで、少しずつできることが増えていきます。また、様々なことを経験する中で子供の得意なことがわかったり、友達や先生との関わりの中で子供の良いところが見えたりします。おそらく皆さんは、子供のできることが増えたり、得意なことがわかったり、良いところが見えたりしたときは、言葉をかけたり、文章で伝えたりして、子供が気付けるようフィードバックしているのではないでしょうか。そのような皆さんの教育的関わりが、子供達の自己効力感を高め、学ぶ意欲を引き出すきっかけとなっているはずです。さらに皆さんからのフィードバックに加えて、できるようになったことや得意なこと、自分の良いところを、「目に見える形」で記録し毎年蓄積していくことができれば、子供は自分自身の成長や変容をより実感することができるでしょう。

また、キャリア・パスポートの例示資料には、「頑張ったことや楽しかったこと、好きなことや夢中になっていること」を記入する欄も示されています。子供は年間を通しいろいろな学習活動に取り組みます。頑張って挑戦したり、学ぶ楽しさを味わったり、好きなことに夢中になったりする子供の姿を、皆さんは学校の中で何度も目にしていることでしょう。しかし、日々たくさんのことを経験している成長期の子供にとって、特に印象的な出来事でなければ、頑張ったことや楽しかったことを一つずつ覚えていることは難しいと思われます。だからこそ、キャリア・パスポートへ記録することに意義があるのです。

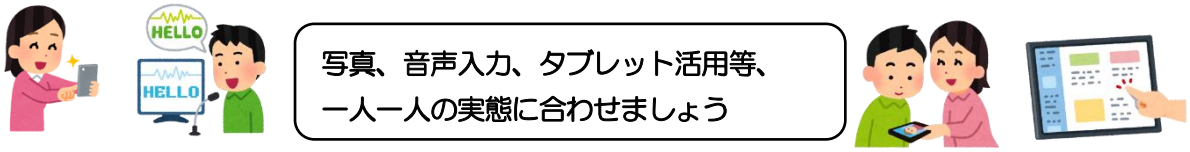
子供は学校を卒業し、次のライフステージへ移行していきます。その後の人生に大きな影響を及ぼす卒業後の進路を選択することは、子供に大きな不安や迷いを生じさせることもあります。そのとき、学校生活 12 年間の中で「頑張ってきたこと、楽しいと感じたこと、好きなことや夢中になれたこと」の記録が蓄積されていれば、今までの自分自身を肯定的に振り返ることができ、自分の将来を前向きに捉えながら、これから進むべき路（みち）を主体的に考えることにつながるのではないでしょうか。



キャリア・パスポートを活用して、一人一人の子供がもっているポジティブな側面を記録・蓄積していくことができれば、すべての子供に必ず訪れる進路選択時に、前向きに取り組んでいくことができるでしょう。「自分らしい生き方」の実現を目指すキャリア教育を推進するために、キャリア・パスポートはとても有効な教材なのです。

キャリア・パスポートを有効に活用するために

キャリア・パスポートは、学習状況等を記録・蓄積し、今までの自分を振り返り、将来を見通すことを可能とする教材です。特別支援学級には、障害により、活動を記録したり、学んだことを振り返ったり、将来を見通したりすることが難しい子供もいます。そのような場合は、個々の実態に応じて、その子供ができる方法でキャリア・パスポートを作成・活用してみましょう。例えば、文字による記録だけでなく、障害の程度や特性に合わせた記録の方法を考えてみましょう。視覚優位の子供には絵や写真を活用する、聴覚優位の子供には音声や動画を活用する、記憶の保持が困難な子供には写真や動画を活用する、抽象的な思考が困難な子供には絵や図を活用する、また、その具体的手段として ICT 機器を活用する等、すでに実践していることをキャリア・パスポートの作成・活用に取り入れてみましょう。



☆さらなる理解のために☆

キャリア・パスポートをいつ作成・活用するのか？

多くの業務を抱えている学校において、新たな実践の導入は慎重にならざるを得ないでしょう。しかしキャリア・パスポートの作成・活用にあたっては、新しい教育活動としてキャリア・パスポートの時間を創設しなくても、すでに実践している教育活動の中で作成・活用していくことができます。

例えば、学期末や年度末には、所属する係や委員会で果たした役割について、学級活動や委員会活動の中で、個々にまたは集団で、振り返る活動を行っていると思います。運動会や文化祭、遠足や修学旅行等の後には、同じように実際に取り組んだことや学んだことを振り返る活動を設定しているでしょう。道徳の授業では、子供が自分の特徴や長所に気付く教育活動を実践しているはずです。このように、子供の学習の成果を確認したり自己理解を促したりする学習活動は、すでに様々な機会を捉えて行われています。まずはこれまでそれぞれの授業で実践していたことを、キャリア・パスポートとして記録に残していくことから始めてみましょう。新しい教育活動を一から考え実践するのではなく、すでに実践していることをキャリア・パスポートという教材にまとめることで、今まで行われてきた実践がより効果的になり、さらに一人一人の「自分らしい生き方」の実現を支えることにつながっていくでしょう。

＜参考情報＞

○筑波大学キャリア教育学研究室　「キャリア・パスポート」はお荷物か？

「キャリア・パスポート」導入に向けた調査研究協力者会議の座長の藤田晃之先生が、キャリア・パスポートがなぜ効果的な教材なのか、馴染みやすく読みやすい文体で説明されています。

○東京都教育委員会　自分らしい生き方の実現を目指して

キャリア・パスポートと個別の教育支援計画との違いを解説しています。また作成上の工夫を、東京都の様式を参考にしつつも具体的に提示しています。

○名古屋市立有松中学校　キャリアナビゲーター通信

令和５年度５月号②では、学校独自の特別支援学級用の様式が紹介されています。

○文部科学省「『キャリア・パスポート』の様式例と指導上の留意事項」

「キャリア・パスポート」の目的や定義、内容、指導上の留意点が詳細に示されています。

○文部科学省「『キャリア・パスポート』に関するQ&Aについて」

「キャリア・パスポート」を作成・活用する際に実際に生じる疑問について、丁寧に説明されています。

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

★ＮＩＳＥのホームページ
https://www.nise.go.jp/nc/

編集　情報・支援部
ＴＥＬ　046-839-6803（代表）
初版発行　令和６年２月